



大洲大 作

焦点の

Daisaku OOZU: Beyond the Focus

2026年

4月18日[土]–5月31日[日]

主催 武蔵野市立吉祥寺美術館[(公財)武蔵野文化生涯学習事業団]

協力 eitoeiko、株式会社イーティックスデータファーム

上毛電気鉄道株式会社、株式会社高田産業

武蔵野市立吉祥寺美術館

(flow/float 一丁川上水 四前橋付近#1, #3)(部分) 2025

©Daisaku OOZU

彼 方

アーティスト・大洲大作（おおず・だいさく、1973 年生まれ）は、うつる／うつすことを主題とし、写真表現を軸に、人の営みを光と影で捉えなおす取り組みを続けています。

大洲の写真にうつるのは、いまこの瞬間にみる／みえる光と影であると同時に、いまこの瞬間を支える過去という永遠であり、次の瞬間に到来し立ちあらわれるものの予感です。焦点があたるところと、その先にあるもの、いうなれば焦点の彼方をも、大洲はうつしているのです。

本展は、写真プリント、映像として投影される写真、レンズなど、「うつる」と「うつす」の両義をもった作品を並置して構成します。最新作は、玉川上水、千川上水、京王井の頭線、中央線、そして武蔵野市の戦争の記憶である中島飛行機武蔵製作所跡地など、武蔵野市内各所を撮影の場としています。

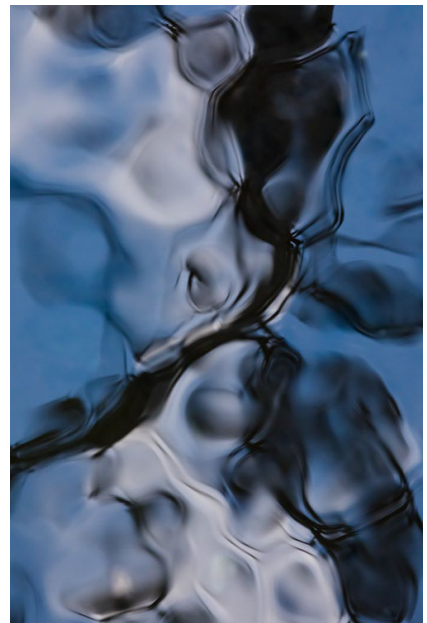
展示構成・みどころ

最新作《光のシークエンスー武蔵野》は、かつて京王井の頭線を走っていた車両の窓をもちいています。実物の電車の窓そのものをスクリーンにして、京王井の頭線と中央線などの車窓にみる／みえる、現在の武蔵野をうつします。

ストレートな写真作品《flow / float》シリーズでは、武蔵野市内を流れる玉川上水や千川上水などの水面にあらわれた、過去や未来をうつすいまの一瞬を、こちらも初公開の最新作として大型のプリントでご覧いただきます。

このほか、2016 年のさいたまトリエンナーレのために制作された作品を現在の風景が補完する《通う人 16-26》、軍需工場の記録と大洲の父の手記をもちいるインスタレーション《未完の螺旋》、リニアモーターカーの車窓レプリカと振動音による《L/0》、山手線から着想した、始まりも終わりのない円環の線路と電車が走り続ける《Loop Line》、コロナ禍の日常／非日常の様相をうつす《血流／人流》、かつて航空カメラにもちいられていたガラスレンズが爆撃の事実を静かに伝える《Apocalypse 90.17-357》、活動初期のモノクローム写真のオリジナルプリントなどによって、展示空間を構成します。

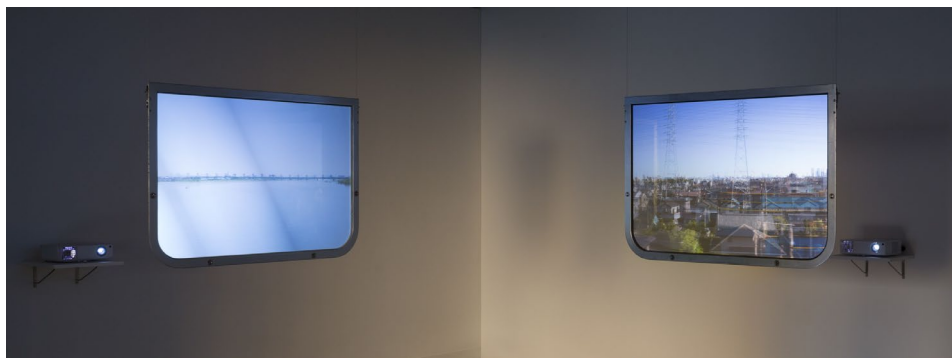
大洲大作がとらえ、写真にあらわす光と影は、いまここに在るということの意味を、私たちに問いかけます。



① 《flow / float - 千川上水 関前橋付近 #3》
2025 © Daisaku OOZU



② 個展「大洲大作 未完の螺旋」展示風景
2019
(会場：京成電鉄 旧・博物館動物園駅)
© Daisaku OOZU



③ 企画展 あいちトリエンナーレ×アートラボあいち「窓から。」展示風景
2018（会場：アートラボあいち） © Daisaku Oozu

関連イベント

①アーティストによるギャラリートーク

日時 4月25日(土) 15:00～(約50分)

会場 企画展示室・ロビー

定員 20名程度(予約不要、要入館)

●アーティスト・大洲大作氏の解説をお聴きしながら展示を鑑賞します。

②木下正道・山本昌史スペシャルコンサート

日時 4月29日(水祝) 17:00～(約60分)

会場 吉祥寺美術館 音楽室

定員 50名(事前予約制、要入館) *コンサートに別途入場料はかかりません

申込 3月30日(月) 10:00より電話(0422-22-0385)にて受付、先着順

●木下正道氏(作曲家)と山本昌史氏(コントラバス奏者)の共演。

新作を含む特別なプログラムで演奏いただきます。

③対談：佐藤守弘氏・大洲大作氏

日時 5月23日(土) 14:00～(約60分)

会場 吉祥寺美術館 音楽室

定員 60名(予約不要、要入館)

●佐藤守弘氏(同志社大学文学部教授・視覚文化研究者)と大洲大作氏に、

本展の主題について、また写真という表現について、お話しいただきます。

④サテライト展示

会期 5月23日(土)～5月29日(金)

会場 武蔵野市民文化会館 展示室(武蔵野市中町3-9-11)

時間 12:00～19:00 *5月27日(水)休場、5月29日(金)16:00まで

入場無料

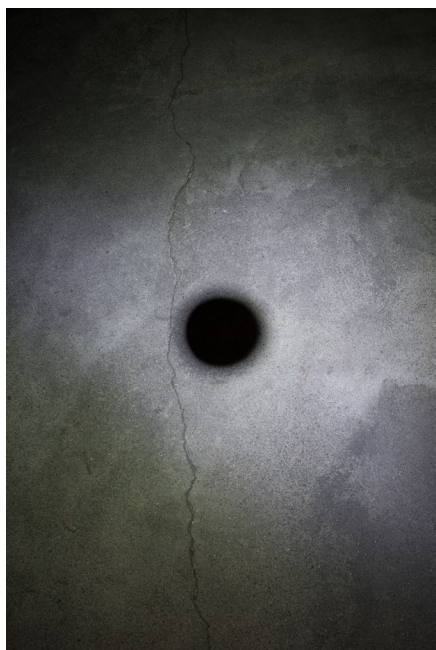
●本展にあわせて制作された最新映像作品を特別公開します。

図録・グッズなど

本展インスタレーションビュー、各作品画像、佐藤守弘氏（同志社大学文学部教授・視覚文化研究者）、大洲大作氏、担当学芸員のテキストを収録した展覧会図録（A4 判、フルカラー56 頁、価格未定）を刊行いたします。デザインは大西隆介氏〔direction Q〕です。

このほか、本展オリジナルポストカード、ブックマークのほか、大洲大作氏特製模型 “Loop Line Mini”（《Loop Line》の小型模型）、写真、関連書籍などを販売いたします。

なお、大西隆介氏には本展広報物、サイン類もデザインいただいています。ぜひご覧ください。



⑤ 企画展「カイロスとクロノスの狭間」展示風景
2025（会場：The Terminal KYOTO）
© Daisaku OOZU



④ 個展「Loop Line」展示風景 2022
（会場：eitoeiko）© Daisaku OOZU



左：⑥ 《flow / float 日本橋川 錦橋付近 #1》
2025 © Daisaku OOZU

右：⑦ 《flow / float 玉川上水 櫛橋付近 #1》
2025 © Daisaku OOZU

大洲 大作 (おおず・だいさく)



1973 年大阪生まれ。1994～95 年 大阪国際写真センター（現・IMI/グローバル映像大学）で写真を学ぶ。1997 年 龍谷大学文学部哲学科卒業。主な個展に「flow / float」(KG+SPECIAL 2023、Gallery PARC、京都、2023)、「Loop Line」(eitoeiko、東京、2022)、「Logistics / Rotations」(蒲田駅東口周辺、東京、2022)、「大洲大作 未完の螺旋」(旧・博物館動物園駅、東京、2019)、グループ展に「コールマイン未来構想Ⅱ」(田川市美術館、福岡、2025-26)、「六甲ミーツ・アート」(神戸市、兵庫、2022)、「めがねと旅する美術展」(青森県立美術館・島根県立石見美術館・静岡県立美術館、2018-19)、「ラブラブショー2」(青森県立美術館、2017)、「さいたまトリエンナーレ 2016」(さいたま市、埼玉)など。「第 26 回 岡本太郎現代芸術賞」入選 (2023)。

基本情報

大洲大作 焦点の彼方

会 期 2026 年 4 月 18 日(土)～5 月 31 日(日)

* 休館日 4 月 30 日(木)・5 月 27 日(水)

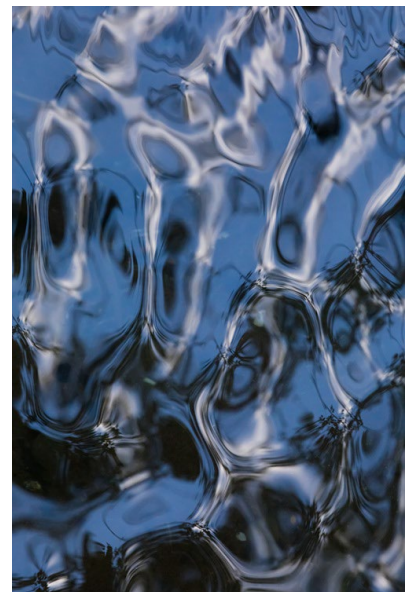
開館時間 10:00～19:30

入 館 料 一般 300 円、中高生 100 円

* 小学生以下・65 歳以上・障がい者の方は無料

主 催 武蔵野市立吉祥寺美術館 [公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団]

協 力 eitoeiko、株式会社イーティックスデータファーム、
上毛電気鉄道株式会社、株式会社高田産業



⑧ 《flow / float - 千川上水 関前橋付近 #1》
2025 © Daisaku OOZU

内容・画像使用ほか本展に関するお問合せ

電話：0422-22-0385(代) / Fax：0422-22-0386(代)

Mail：shigeno-yoshimi@musashino.or.jp

本資料に掲載の作品は、画像データ（大洲大作氏撮影）をご用意しております。

画像データ利用ご希望の際は、武蔵野市立吉祥寺美術館 ^{しげの} 滋野 まで必ずご連絡をお願いいたします。

ご利用案内

武蔵野市立吉祥寺美術館

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-8-16

コピス吉祥寺 A 館 7 階

電話 0422-22-0385 / FAX 0422-22-0386

JR 線・京王井の頭線 吉祥寺駅北口より徒歩約 3 分（専用駐車場はありません）

美術館公式ホームページ <https://www.musashino.or.jp/museum/>

